

研究題目

設置者（千葉市）との協働による
「総合的な探究の時間」の充実について
～持続可能な地域社会を創生する
グローバル・リーダーの育成に向けて～

目 次

- 1 千葉市をテーマにした探究活動
- 2 市政出前講座
- 3 教科での取組
- 4 千葉市創生プロジェクト
 - (1) 千葉市創生プロジェクトの概要
 - (2) テーマの設定について
 - (3) フィールドワークについて
 - (4) プレゼンテーションについて
- 5 「総合的な探究の時間」のさらなる充実のために
 - (1) 教職員の共通理解の促進
 - (2) 大人のかかわり方
 - (3) 教科書等の導入
 - (4) 「総合的な探究の時間」専任教員の導入

千葉県千葉市立稲毛高等学校 校長 伊澤 浩二

1 千葉市をテーマにした探究活動

市立高等学校の一つとして、本校が地域をめぐる様々な問題をテーマにしたのは、次のような経緯がある。本校は、平成2年に国際教養科が設置され、国際教育・英語教育を特色とする高等学校として、市民の期待を担ってきた。国際教養科は各学年1学級設置であるが、全校で国際交流の歓迎行事を行ったり、普通科の学級に所属する生徒に対して海外語学研修への参加を呼び掛けたりするなど、学校全体として国際教育・英語教育に取り組んできた。文部科学省には、SELHi^{*1}やSGH^{*2}等、重点的に国際教育や英語教育を行う学校を支援し強化させる施策があり、本校でも2期にわたってSELHiの指定校となった。この経験は、新しい教育方法の開発や他指定校との交流など、学校や教職員の教育力向上に大きく結びつく効果を生み出した。こうした経緯もあり、本校では、その後、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型^{*3}）」の指定を受け、より地域に基づいた探究活動を推進することとした。

折しも、総合的な探究の時間が高等学校で始まった時期に当たり、これを実り多い活動にするために、第1学年を対象に、「課題の設定」「調査」「分析」「まとめ」「表現」からなる一連の流れを理解させる必要があった。このため、取り組みやすいテーマとして、はじめに学校生活上の身近な問題を考え、解決策を検討する探究活動を設定した。平成28年度からはこの活動を発展させ、少し広く、生徒たちの居住地に関係する身近な問題をテーマとすることとした。一般的に県立高等学校は、複数市町村にまたがる広い通学区域をもつが、本校は市立高等学校であるため、普通科の通学区域が千葉市にコンパクトに限定されている。あるテーマについて、探究のグループで検討するとき、認識を共有しやすい。また、千葉市は六つの区が存在する比較的広い領域を持ち、土地利用は、港湾・山林・住宅地・商業地・工業地など多岐にわたる。900年にわたる歴史を持ち、周辺地域や東京からの人口流入も多い。一方で、交通集中・自然環境破壊・旧商業地域の衰退など、解決しなければならない課題も存在する。こうした課題のいくつかは、高校1年生にとって探究の対象としやすく、与えられた時間と、資料の入手やフィールドワークのしやすさもあり、以降、本校探究活動の重要なテーマの一角を担っていくこととなった。高校2年生以降では、これをさらに発展させ、世界的な課題に目を向けさせ、持続的な社会の在り方に対する探究を深めていくことになる。

2 市政出前講座

市政出前講座については、市長部局との連絡が取りやすいこともあり、市教育委員会がコーディネートしている。グローバル・リーダー育成の一環として高校1年生を対象に「総合的な学習の時間」を活用して、自分が居住する千葉市の課題を発見し、高校生の目線で課題解決策を考え、その解決策を実際に市へ提案することを目指した

授業に平成28年度から取り組むこととしたことに合わせて、6月には、以下のテーマで市政出前講座「千葉市の概況と問題点」について実施した。

【資料1】市政出前講座テーマ一覧

A	清掃工場の将来像	環境局資源循環部 廃棄物施設課
B	自転車レーンの整備について	建設局土木部 自転車対策課
C	マイナンバーであなたの生活が変わります！	総務局情報経営部 業務改革推進課
D	『ちば』の景観まちづくり	都市局都市部 都市計画課
E	子ども・子育て新制度について	こども未来局こども未来部 幼保支援課
F	人と動物がともに暮らすためにあなたができること	保健福祉局健康部生活衛生課 動物保護指導センター
G	千葉市の交通安全事業について	建設局土木部 維持管理課
I	多文化共生社会について	総務局市長公室 国際交流課

これらの出前講座に関連して、7月に「言語技術」、9月には「フィールドワークのポイント」、11月には「プレゼンテーションスキル」の講演を、外部講師を招いて実施した。こうした市政出前講座は、毎年様々なテーマで実施し、生徒が千葉市の施策を詳しく知る機会となるだけでなく、多くの刺激を受け、学習意欲を高める機会となっている。

3 教科での取組

社会科や公民科での取組もある。千葉市財政局資産経営部資産経営課と協働で中学3年生公民の授業では、2030年と2045年の千葉市の将来を知り、今ある千葉市の公共施設をどのように転用していくことがより良い千葉市の経営につながるか、提案・討論会を行った。独自のボードゲーム教材^{*4}を開発して授業内に実施することで、千葉市の将来がどのようになることが想定されるか、少子高齢化する未来の中で生き生きと市民が暮らすためにはどのように資産経営をしていくことが大切かを、考える授業を実施した。

高校3年生政治経済の授業では、千葉市基本計画素案を読み、千葉市が目指そうとしている未来像やまちづくりの総合8分野（環境・自然、安全・安心、健康・福祉、子ども・教育、地域社会、文化、スポーツ、都市・交通、地域経済）を理解し、8つの分野の中から1つを選び、より良いまちづくりにつながるための具体的な提案を練って発表し意見交換を行った。生徒から出された意見は総合政策局で持ち帰って検討し、後日、実際に千葉市基本計画素案に反映された内容や、総合政策局の人たちが今回の提案活動で高校生と触れ合って今後どのように仕事をしていきたいかなど感じ

た事などを生徒に報告した。生徒一人ひとりの活動が、市政や市で働く人の意識に影響を与えたことを理解し、実際に話をしたり行動を起こしたりすることで、世の中が少しずつ変わっていく事を体感できた。

2つの授業とも主権者としての自覚を促す効果があったと考える。

4 千葉市創生プロジェクト

(1) 千葉市創生プロジェクトの概要

これまでも「千葉市の問題を考える」活動はあったが、総合的な探究の時間が設置され、系統的に探究活動に取り組むこととなり、毎年の総括を通して、より一層、改善が図られるようになった。

同プロジェクトは高等学校1年生の6月から12月にかけて実施するもので、生徒が身近な千葉市を教材とし課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動である。10月には、千葉市市長部局・千葉市教育委員会の協力のもと、生徒が千葉市内でフィールドワークを行い、探究活動での疑問点等を確認し、11月から12月にかけて学級単位・学年単位・全体での成果発表会を行い、コンソーシアム^{**5}の協力のもと、大学教授等から指導・助言をいただき、優秀グループを選出して、最終的には市長のもとでプレゼンテーションを行うこととなる。

【資料2】コンソーシアムの構成

市町村	千葉市 各市長部局
市町村	千葉市教育委員会
市町村	美浜区役所
高等教育機関	千葉大学国際教養学部
高等教育機関	神田外語大学
高等教育機関	東京情報大学
高等教育機関	敬愛大学
企業	SMB C日興証券株式会社
企業	株式会社千葉経済開発公社
地域	社会福祉法人千葉市社会福祉事業団
地域	社会福祉法人千葉市社会福祉協議会
地域	千葉市を美しくする会

(2) テーマの設定について

探究活動の成否で大きなウェイトを占めるのが、テーマ設定である。そのため、NHKの「プロのプロセス」というサイトの「1課題の見つけ方」という動画を教材に、ワークシートに答えさせる指導を行った（例：1 虫の視点とはどのような

ことですか？簡潔にまとめましょう。2 鳥の視点とはどのようなことですか？簡潔にまとめましょう。3 自分の中学校生活で「上手くいったこと」「上手くいかなかったこと」を7個ずつ書きましょう。4 プロ（赤木アナ）のプレゼンをみて上手だと思ったテクニックを3つ以上書いてください。5 動画を見た感想を書いてください。).

生徒たちが最初から適切なテーマを設定することは難しい。壮大なテーマを設定して着地点が見えなかったり、調べればわかるようなテーマを設定して、深まらなかったりすることはよくある。

しかしながら、与えられたテーマで探究するのでは、生徒たちの主体的な取組とまらない懸念がある。やはり、テーマは、生徒たちに内在する疑問や関心をもとに作りあげられていくものであった方がよい。

テーマ設定にあたっては、最初に地域の課題に視野を広げることを目的とし、「千葉市の気に入っているところ、不満なところ」を、付箋にそれぞれ5つ以上書き、模造紙に貼っていく活動を行った。その際、ブレインストーミング[※]の手法として、「他者のアイデアを批判しない」「突飛なアイデアやつまらないアイデアだと決めつけて自己規制するのではなく、たくさん意見を出す」「他者のアイデアを発展させることも可」などを指導した。

この活動を踏まえて、以降2単位時間かけて、さらにアイデアを出していきながら、班でテーマを絞り込ませた。テーマを絞り込む過程では、最終的に「実行可能か」「探究する意欲が湧いてくるものか」「探究して社会に貢献できるか」「簡単に解答がでるものを選定していないか」の4つの視点で吟味するよう指導した。これらの活動を経て、決まったテーマは、令和元年度と比較し、地域をテーマとする班の数が大幅に増えた。



【資料3】生徒が設定したテーマ

千葉都市モノレールの活性化	千葉市に新しい観光地を
災害対策について	海浜公園を有名にしよう
学校を中心として地域を盛り上げよう！	海の活性化
不審者情報共有アプリについて	スマホを使った千葉市観光プロジェクト
バスの混雑の改善	千葉市区対抗ご当地グルメ選手権

地域の人同士がつながりをもつ	子供が安全に遊びたがる公園づくり
スポーツ人口増加計画	特産物をPRしよう
公園	スクールバス
給食の日を作る	私服登校の日を作る
映像授業の活用について	名所を作る
市立学校食事改革	習熟度授業
登校日とオンライン授業の選択制授業	学校の空調
スマホを取り入れた授業	学生が被害にあう事件・事故が多い
授業の一環でD I Y	通勤通学を改善
W i f i	映像授業の活用について
購買レボリューション	My C i t y R e p o r t
学校生活における服装	学校にいる時間が長い
学校のインターネット環境を良くする	授業時間の改善
生徒の休みを増やそう	リモート授業をもっと活性化させよう
T H E 稲高D I S H O 円食堂 i n 千葉	千葉市のキャラクター改革
学校の始業時間を遅らせる	夏休み改革～新しい自分を見つけよう～
学生の荷物を軽くするには	学校の制服改革
学校の授業時間を短くする	時差通学の導入
学校にグローバル革命を！	授業を効率よく受けたい
「千葉市アイデンティティ」を広めるために	
テーマパークを作って市の収入を増やそう計画	

(3) フィールドワークについて

テーマが決まった班は、テーマを選んだ理由を班で話し合いロジックツリー^{*7}を使って、テーマから問いを作成した。その際、どのような視点で問いを作成していけばよいか指針（5W1Hや、真実か、ほかではどうか、これだけか、すべてそうなのかなど）を配布した。テーマから問いを立てる活動は令和元年度も行ったが、令和2年度は、より思考を深め、質の高い問いを作るためにロジックツリーなどの思考ツールを活用した。

アンケートやインタビューの内容を事前に学年職員でチェックし、指導した上で、実施の前に、あらかじめ調査先に調査内容を知らせて準備を依頼した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、10月13日に予定どおりフィールドワークによる校外でのアンケート・インタビュー調査を実施することができた。そのアポイントメントは、事前に教員がチェック・指導した上で、生徒によって行われた。学校や市役所、教育委員会など、公的な機関への調査をする班が多かった。

【資料4】アンケートやインタビュー調査の手順

- 1 各班で「アンケート及びインタビュー企画書」を作成し、学年職員が事前にチェックし、承認する。
- 2 承認された班は、学校内外でアンケート・インタビューを実施する。
- 3 学校外でのアンケート・インタビューの実施を希望する班は、上記1の承認を受けた後、対象の企業・事業所等に電話でお願いできるか交渉をする。企業・事業所等に受け入れていただいた場合、依頼状を作成し、郵送または持参する（アンケートの場合は依頼状に添えて持参する）。アンケート・インタビュー終了後、1週間以内にお礼状を作成し、郵送する。

また、校内でのアンケート実施を希望する班が多かったため、個別ではなく一括して実施できるようにした。「Google Forms^{**8}」で実施する班については、生徒棟の1～4階にQRコードとアンケート用紙を掲示した。一方、紙でアンケートを実施する班については、アンケート用紙を各教室に置き、職員室前の回収箱で回収できるようにした。新型コロナウイルス感染症の流行が背景となり、本年度の途中に、学習用のオンラインプラットフォームとして「G Suite for Education^{**9}」を導入したため、「Google Forms」を使ってアンケートを実施した班も多かった。

アンケート用紙の作成にあたっては、次のような例を示した。

- | | |
|----------------|------------------------|
| ○班 「テーマ」 | |
| ・ 目的、期間 | ・ 問い合わせ先 |
| ・ アンケート結果の取り扱い | ・ QRコード（ネットで作成方法等を調べる） |

(4) プレゼンテーションについて

令和2年度は「1 発表時間は6分以内。2 スライドの枚数は8枚以内。3 以下の「プレゼンテーションで発表すること」の項目を網羅していること (1) 研究テーマ (2) 研究目的(何を明らかにするための研究なのか) (3) 研究テーマを選んだ理由 (4) 研究の意義(この研究を行うことで、どのような影響があるか) (5) 研究の仮説 (6) 研究で用いる手法 (7) 研究結果 (8) 結論と提言 (9) 引用・参考文献・協力」のルールのもと、スライド資料を作成させた。「G Suite for Education」を導入し、学校用アカウントを生徒に配布しているため、「Google スライド」を使い、スライド資料を作成した。「Google スライド」の利点は、同時編集が可能であること、生徒個人の端末を使い、各自のタイミングで編集が可能であること、さらに編集の履歴が自動でクラウド上に保存されるためデータの紛失等の恐れがなく、一旦編集したものを過去のバージョンに簡単に戻すことが可能であること、などが挙げられる。またスライド資料について教員のアカウントも共有すれば、生

徒の進捗状況をリアルタイムに確認できる利点もある。

発表会は、まずリハーサルを行い、そのあと活動単位となる各教室での発表会、そして各教室の代表による学年発表会を行った。学年発表会は、十分な時間を（2時間）確保して行った。テーマ設定で述べたように、本年度は昨年度と比較し、地域を課題とする班の数が大幅に増えた。しかし、選出された代表班の内訳を見ると、学校をテーマとした班が多いことがわかる。地域をテーマとした班の調査がより深まるような指導が今後の課題である。

学年発表会にて、外部評価委員の先生方による評価を行い、上位三班を選出した。令和元年度には、代表三班は千葉市役所会議室にて、市長に対しプレゼンテーションを行い、そのうち一班が市長賞を受賞した（令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策で市長プレゼンは実施しなかった）。

【資料5】市長賞の概要

テーマ「学力向上のために昼食後に昼寝タイム導入」

稲高生へのインタビュー、病院での聞き取り、他県の先行事例をもとに午後の授業前に昼寝の導入を検討。昼寝をするときのポイントや、環境を提案した。

市長からは
「教育委員会からは出てこない発想で素晴らしい。試験的にやってみてもよいと思う」
とのコメントをいただいた。



【資料6】生徒の感想（抜粋）

- ・初めて会った仲間同士で最初は手間取ったけど、みんなで協力することで53班中1位になれたのでとても嬉しかったです。稲毛高校代表として、もっと改善したものを市長に提案し、市長をうならせたいです。また班を作って探究活動する機会があれば、より良いものを作りたいです。
- ・課題を自ら見つけること、初対面の人たちと協力し物事を進めていくのはとても難しかった。だが社会に出たらこのような事は日常的にあると思うので、慣れていきたい。人をやる気にさせる、自分の思いをわかってもらうなどの能力も大切だと思った。
- ・班のみんなで問題点を探してそこから調査したり、話をまとめたりするのはとても大変だったけれど将来につながる経験になったと思う。社会人の人が同じようなことを日々していると思うと凄く大変だと思った。

・データや調査から事実を見つけ出して論理的に説明する事の大切さを学びました。大変だったけど班の人たちと色々な意見を交換する事で新しい切り口を見つけられたと思います。それは今後何かしらの問題を抱えた時に解決する時の手段になると思いました。

5 「総合的な探究の時間」のさらなる充実のために

(1) 教職員の共通理解の促進

「総合的な探究の時間」については、学習指導要領で目標や取扱いなど詳細に記載されており、どの学校でも共通理解を図っているところである。しかし、大切なことは、学習指導要領の趣旨に沿いながら、教員一人ひとりが自分の経験や価値観に照らし合わせながらその重要性を自分の中で具体化し、これを発信してまわりを巻き込み、より深く「総合的な探究の時間」の意義を理解することである。例えば、こんな形で具体化できる。

社会に出れば、論理的な思考力、課題を把握する力、データ収集及び分析する力、新たな取組や改善方法を構想する力、調整力、伝える力（表現力）等が求められる。これらの力量は、教科の指導だけでは十分育成できるものではない。「総合的な探究の時間」において、各教科で育成されたそれぞれの力を駆使し、設定した課題に取り組むことで、知識や技能が思考とともに融合され、生徒を教科の単一的な指導とは異なる次元に成長させることができる。また、生徒は「総合的な探究の時間」とおして各教科の学習の必要性を再認識し、学習意欲を高めることが期待できる。

身近な教員が語る言葉で「総合的な探究の時間」の重要性を学校全体で共有することが大切である。

(2) 大人のかかわり方

生徒の活動に対して、外部に協力を求める際、様々御配慮をいただき、生徒に対しても温かい言葉がけをいただいている。校内においても生徒の発表等について教員は励ましの言葉を与え、褒めて伸ばすことを基本としている。しかし、始めはよいとしても、いつまでも褒めていただけでは、生徒の力を育成できない。生徒は、基本的に教わる構えができており、助言を素直に受ける状況にある。むしろ褒められ過ぎていると思っていないかとさえ思うことがある。大人が本気で、発表やレポートにおける矛盾点や調査不足を指摘したり、自分の考え方を伝え、生徒の考えを聞いたりするなど、むしろ生徒を大人として対応することが必要ではないかと思う。

指摘に承服できず、新たなデータを探し、再度、説明を試みたり、資料を探し続けたが、指摘を覆すことはできず、考えを修正したり、また、全く次元の違う段階に昇華させるなどの経験がさらに深い学びにつながっていくと考える。

(3) 教科書等の導入

「総合的な探究の時間」がややもすると「悪しき活動主義」に陥る懸念がある。例えば、ただフィールドワークでどこかを訪問しただけであったり、ほとんどインターネットで調べたものをコピーしたレポートであったり、形式におちてしまうことがある。これは、学習の動機付けなど様々な要因があるが、学習にあたり、基本的な準備ができていないことも影響していると考えられる。教員にとって「総合的な探究の時間」は、他の教科、科目よりも何を教えたらいいか迷うことが多い。そこで、論理的な思考（例えば、論理的に矛盾した文章を読みながら、矛盾点を指摘し、修正するような教材）、統計（基本的な統計に関する知識に加え、根拠にデータを示しているが、根拠となりえていないことを発見させるような教材）、表現方法（理解しやすく、説得力のある文章の書き方）等を効率的に身に付けさせる教科書（副教材でも可。本校では、啓林館 課題研究メソッドStart Bookを使用している。）を導入することが重要だと考える。

(4) 「総合的な探究の時間」専任教員の導入

本校では、「総合的な探究の時間」について委員会を設置して指導計画等運営全般を行っている。しかしながら、各委員は当然、自分の担当教科があり、その教材研究等に多くを費やすことになる。これに加え、「総合的な探究の時間」について、資料を用意したり、外部講師の手配をしたり、フィールドワークの計画を立てたり、様々な業務が発生する。

また、上記(3)に示したとおり、「総合的な探究の時間」を実りあるものとするためには、生徒に基本的な事項を理解させる必要がある。これらは、だれでもできるのかといえ、十分時間をかけ、教材研究を行えば可能であろうが、日々、自分の教科の教材研究に追われている中では、実質的には準備不足となってしまうと思われる。

そこで、各教科の授業担当時間数が多少増えたとしても（各教科で負担を分担し）、学校に「総合的な探究の時間」を専門に教える教員を置くことが重要である。

そして、「総合的な探究の時間」を時間割に組み込み、教科と同様に授業を行っていくことが有効だと考えられる。そして、担当教員は、フィールドワークやプレゼンテーションなどの企画も行い、これらの場合は、特別時間割で、ある曜日の午後を活用し、学年全体の教員で指導するなど工夫することが有効である。

現在本校には、「総合的な探究の時間」に強い関心を持った職員が複数いることで、充実した活動を行うことができているが、これは「たまたま」そのような教員が在職しているということであり、安定的に運営するためには、専任教員の導入が不可欠である。

「総合的な探究の時間」は、極めて重要であり、高等学校の改革においても象徴的な意味合いを持っている。定数措置が難しくても、各校に配置された職員の中で工

夫をしながら、専任教員を導入し、専門性を高めていくことが「総合的な探究の時間」を充実させる鍵だと考えている。

【注】

※1 SELHi

平成17年度から21年度まで、文部科学省が英語の授業の改善のために指定した、英語教育を重点的に行う高等学校等。

※2 SGH

平成26年度から、文部科学省が質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進めるために指定した、グローバル・リーダーの育成に取り組む高等学校等。

※3 グローカル型

地域との協働による高等学校教育改革推進事業のうち、グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成する高等学校。

※4 ボードゲーム教材

少子高齢化と生産年齢人口の減少が進む2035年と2050年の2段階において、限りある歳入の中で千葉市6区の公共施設の用途をどのように変更するとより魅力的な市となるか、遊びながら思考を深めるようにしたゲーム教材。

※5 コンソーシアム

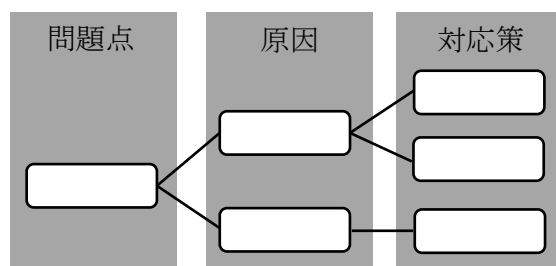
高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うための共同体。本校の場合は【資料2】の各団体で構成。

※6ブレインストーミング

少人数の集団でアイデアを出しやすくするための手法。

※7 ロジックツリー

問題を要素ごとに分解するフレームワーク。使用したのは以下のモデル。



※8 Google Forms

Googleのアプリケーション。アンケートや質問、申し込みのフォームが作成できる。

※9 G Suite for Education

現在のGoogle Workspace for Education Fundamentals。GmailやGoogle Classroomなどを含むGoogleのグループウェアサービス。